

## 新採用者を迎えて

国立国際医療研究センター病院  
看護部長  
佐藤朋子

桜の花が咲く4月1日、約130名の新採用者を迎えました。毎年この時期を迎えると、少し緊張した面持ちの中にも、専門職として一步を踏み出すことへの喜びや職業に就く責任の重さなど、看護職という仕事に就くことに真摯に向き合う新採用者の姿に、私自身も身が引き締まる思いがします。

新採用者のオリエンテーションは約10日続き、その中で講義や、グループワーク、演習など様々な方法で学習を進めます。接遇や臨床倫理の研修は、多職種と合同で行われ、互いの専門性を尊重し、自身の専門性を発揮しながら協働できるチーム医療の基盤をつくる機会ともなっています。大学で学んだことの復習でもあったと思いますが、少しでもスムーズに臨床の現場で力を発揮できるよう支援しています。

当院では、新採用者は黄色のネームストラップを使用しています。誰からみても新採用者とわかり、看護職以外の病院職員からも新採用者に対して配慮ある関りをいただいています。入職当初の真新しい黄色のストラップは、新採用者を一番近くでいつも見守り、新採用者の成長とともに、少しずつ鮮やかさを失っていきます。他の職員と同じブルーのストラップとなる来年の2月には、1年目ならではの経験をしっかりと積み、大きく成長してくれていることと思います。その日が今から楽しみです。

オリエンテーション最終日には「こんな看護師になりたい」というテーマで、自分がなりたい看護師像について話し合います。まだ経験の少ない新採用者が、未来を創造し「患者さんにこんなケアをしたい」「自分はこんな看護師に成長したい」「病棟の看護師の中でこのように力を発揮したい」など将来の自分への期待や思いが溢れ出るグループワークとなります。このグループワークは私にとって、新鮮な思いを聞く、新採用者からエネルギーをもらう貴重な機会でもあります。そして、オリエンテーション最終日には、初日の緊張感も薄れ、新採用者は3か月に1回の集合研修でのグループワークで振り返りができるよう研修が企画されています。4月の入職当初に抱いた「こんな看護師になりたい」という思いを心に留めて、自身を振り返りながら着実に看護職としての歩みを進めてほしいと思っています。

急性期の総合病院という多数のタスクが重なり、成長に努力が必要である当院で看護職としてスタートを切ることを選択してくれた新採用者には頭が下がる思いです。思い描く看護師に近づけるよう、また、1人ひとりに適したキャリアアップにつながるよう支援し続けることで、いずれはジェネラリスト、スペシャリスト、教育者、管理者など、様々な立場で当院の看護の質向上に貢献できる人に大きく成長することを願っています。